

## I 土づくり (図-1)

工事した場所は日当たりが良く、樹齢が若いウメにもかかわらず、成育が悪く枯れたウメが半数を越えていました。土の中には旅館の瓦礫らしきものが多く観察され、それが原因となり根に十分水が行き届かず、枯れてしまったようです。そのため、既存の土壌すべて取り除き、新しい土壌の充填を実施しました。さらに、土壌微生物のバランスと安定を図るため、事前にEM菌を用いて、土壌改良をおこないました。

土壌掘削量：297 m<sup>3</sup>

客土量：430 m<sup>3</sup>

## II ウメの植替え (図-2)

早咲きのウメの名所とするために、成育が悪く品種が不明な既存のウメは全て早咲きのウメに植え替えました。植替えの際は①花の会で算出したウメの花つきを良くするための最適密度本/m<sup>2</sup>を基準とし、②本年度の梅祭りにおいて見栄えのある空間を演出するため、花が期待できる大物のウメを植えました。

### 【既存樹木の状態と個数】

健全：11本→園場にて仮植後、園内に再移植する予定。

半枯：4本→園場にて仮植し、樹勢の回復状況を確認後、再使用を決定する。

枯死：19本→撤去する。

計 34本

### 【新規導入樹の特性と個数】

白花：17本 (内シダレ3本)

紅花：14本 (内シダレ1本)

計 31本

## III 低木・地被植栽 (図-3)

今回の改修地は傾斜地が多く客土した土壌の流出が考えられるほか、夏季における雑草の繁茂が考えられます。また、早咲きのウメを印象づけるための手法として、早春に開花する草花を地表面に植栽し、熱海梅園でしか見られない花の組合せを演出しました。その際、①土壌の流出防止として、地際には根張りの良いもの、②雑草の侵入防止として、常緑のものを絨毯状に敷詰め、③梅の開花に合わせた草花を島状やまばらに植栽しました。

### ① 土壌の流出防止として地際には根張りの良いもの

ササ類、ヒメツルソバなど

### ② 雑草の侵入防止として常緑のもの

ササ類、タマリユウ、オオバジャノヒゲ、オキザリスなど

### ③ 梅の開花に合わせた草花

アロエ、ソウシンロウバイ、スノードロップ、ペチコートスイセンなど

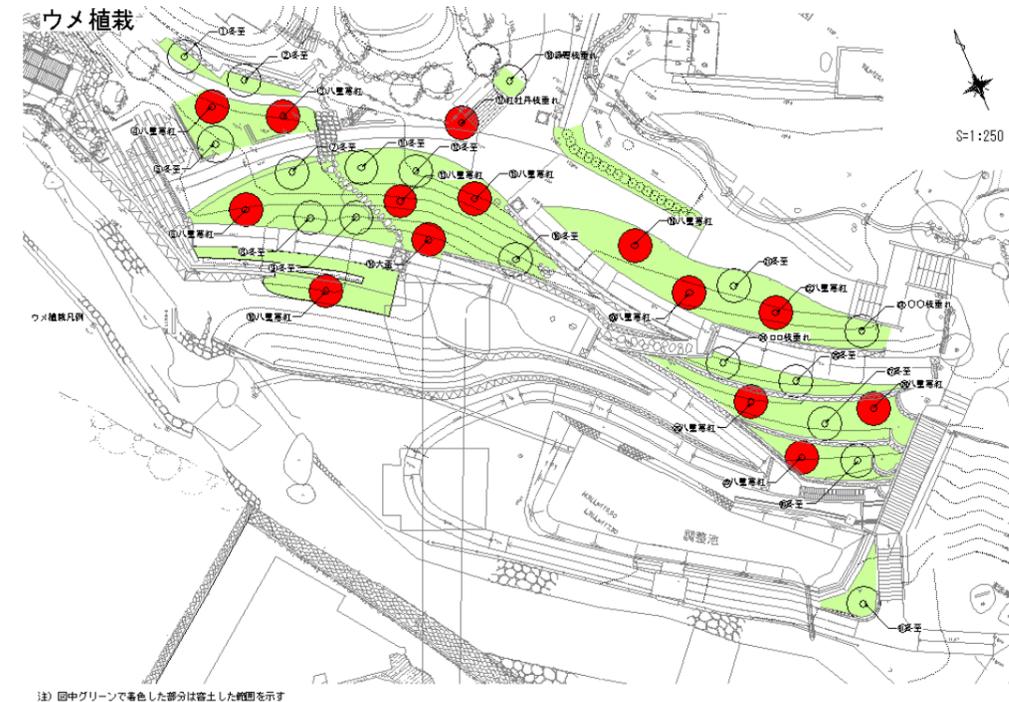


図-1 ウメの植栽位置と土壌改良区域

花の色	品種名	咲き方	大きさ	備考
白	冬至	一重	中輪	
	緑萼枝垂れ	八重	中輪	枝垂れ
	〇〇枝垂れ			枝垂れ
紅	八重寒紅	八重	中輪	濃紅
	大盃	一重	大輪	
	紅牡丹枝垂れ	一重	中輪	枝垂れ

図-2 新規に導入したウメの特性

低木類	地被類	ササ類
サンシュユ	ツワブキ	シラン
ソシンロウバイ	タマリユウ	オキザリス
ボケ	ベニシダ	ヒメツルソバ
マンリョウ	ペチコートスイセン	シバザクラ
センリョウ	キチジョウソウ	コウライシバ
ヤブコウジ	スノードロップ	
ドウダンツツジ	ヒメシャガ	
ヒイラギナンテン	ニホンズイセン	
ホソバヒイラギナンテ	オオバジャノヒゲ	
アロエ	カンザキアヤメ	

図-3 低木・地被類として用いた品種